



「このよで いちばん はやいのは」

校長 柴澤明子

「その走り方、スロージョギングって言うんでしょ?!」体育館のランニングコースを走っていたら、急に声を掛けられました。「足に負担もないし、いいんだってね。」と、私の知らないことをその方は教えてくれました。確かにスロージョギングなのですが。

「私、この速さでしか走れないんですよ。」

…ちよつとの間があり、二人の笑い声が体育館に大きく響いたのでした。

走るのが大嫌いでも、“スロージョギング”を始めたら、身体を動かすことは気持ち良いと感じられるようになりました。速さは二の次。

そんな私が「このよで いちばん はやいのは」(ロバート・フローマン原作、あべ弘士 絵 福音館書店)の題名にひかれ、その答えが知りたくて読んだ本。1月の全校朝会で、子どもたちに読みました。

<あらすじ>

ウサギと亀を比べたらウサギの方が速い。でも、そんなウサギもツバメよりは遅い。「速い」とか、「遅い」とかは、何かに比べて言えることだ。

人間はツバメやチータより遅いけれど、それらよりも速く走る道具を作り出した。新幹線やジェット旅客機。でも、お寺の鐘のゴーンという音は、もっと速い。地球の回っている速さは、もっともっと速い。

…この宇宙の中で、光よりも速いものはないと考えられている。だが、その光よりも、もっと速いものがある。それは、人間の「想像力」である。宇宙の果てにある星にも、何百年先の未来の国へも、田舎のおじいちゃんやおばあちゃんの家へも、人間は“想像力のつばさ”を使えば、一瞬で行くことができる。

2月27日に予定されている「六送会」に向けて、全校の子どもたちが様々な準備に取り掛かっています。これまでお世話になった6年生に喜んでほしい、その一心で、みんな一生懸命なのです。



残り少なくなった6年生と一緒にいられる日々、たくさん話し、たくさん遊び、たくさん思い出をつくる活動が、いくつも計画されています。そう、私たちはたとえ離れていても、“想像力のつばさ”を広げて、いつまでも6年生とつながっていられるのですから。

【真剣な表情で 新春 全校書き初め大会！】

14日（水）の3・4限に全校書き初め大会を行いました。琴と尺八の先生から演奏をしていただいている中、体育館で書き初めをしました。「春の海」や「ピリ－ブ」などの曲を琴と尺八で奏でていて、子どもたちは、荘厳な雰囲気の中に新年の喜びを感じ、筆に力を込めていました。1・2年生も琴と尺八の演奏を聞いたのち、教室で「かきかた（硬筆）」に真剣に取り組みました。3～6年生は体育館で「習字（毛筆）」を行いました。どの子の表情にも、「良い字を書こう！」とする真剣さと緊張感がみなぎっていました。力作については、1月21日（水）から30日（金）まで1階掲示板及び各教室前廊下に展示します。ぜひ、学習参観の際にご覧ください。



【感謝の気持ちが広がった給食週間】

1月19日（月）～23日（金）は給食週間です。給食週間では、毎日おいしい給食を作ってくださっている栄養士さんや調理員さんへの「ありがとう」の気持ちを大切にする学習を行いました。児童朝会では、給食委員会が給食のはじまりや給食週間について発表し、楽しいクイズも行いました。また、全校で感謝の手紙を書き、思いを届けました。1・2年生は、永井センター長さんや内田栄養士さん、調理員の伊東さん、荒井さんを招待して一緒に給食を食べ、笑顔あふれる温かい時間となりました。



【8：10以降の来校時の対応についてのお願い】

校舎内の安全確保のため、8時10分以降は玄関を施錠します。遅れて登校した場合や御用のある方は、職員玄関のインターホンを押してください。職員が職員玄関で対応しますのでお待ちください。状況により教務室までお越しいただく場合があります。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。